

2 小学校

(1) 書くことが苦手な児童<3年生>

〔要約〕

書くことが苦手な4人の児童が在籍する通常の学級における国語の授業研究をとおした支援の事例である。漢字の成り立ち等を調べながら「漢字ブック」作りを行うことにより、漢字に興味をもって学習することができるようになってきた。特に、書くことに対する負担の軽減や学習への見通しをもたせるためにワークシートを活用したことが効果的だった。

1 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



A 児	B 児	C 児	D 児
<ul style="list-style-type: none"> 興味関心があることには集中して取り組むことができるが、継続して取り組むことが難しい。 聞いていないように聞いていることが多い。 話すことは積極的にできるが、書くことは苦手で消極的になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 補足説明をして、課題が理解できると、自分なりの考えをもって、発表することができる。 気持ちが乗っている時は集中して学習に取り組むが、それを持続することが難しい。 書くことが苦手で、板書をノートにまとめることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 気が散りやすく、学習中でも突然席を離れ、教師の注意も聞聞き入れにくい。 表現する意欲は高いが、気持ちや考えを表す語彙が少ない。 課題が理解できたときは、積極的に発表したり、ノートに自分の考えをまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少なく、漢字の読み書きが十分できない。 課題を理解することが難しいが、例を示すなど、手がかりが得られると、自分で学習に取り組むことができる。 自分の考えを表現することが苦手である。

2 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した支援の内容・方法〕

A 児	B 児	C 児	D 児
<ul style="list-style-type: none"> 机上には、必要最低限の物を出すようにさせたり、声かけをして注意を喚起したりする。 きちんと話を聞けたり、一文でも書けたりしたときは、その場ですぐに称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前向きに学習に取り組む様子が見えたときは、その機会を逃さず称賛する。 課題が十分理解できずに戸惑っている様子が見られたときは、何をすればよいのかを具体的に指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を設定した後、解決の見通しがもてたかどうかを必ず確認するようにし、自信をもって学習に取り組むことができるようにする。 指示は具体的に行うように留意する。 漢字等の補充指導を放課後、個別に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話をしながら、理解できていることと理解できていないことを確認し、理解できていない場合は、例をあげて説明したり、ヒントを示したりする。 語彙を増やしたり、漢字練習をしたりする補充指導を放課後個別に行う。

3 授業実践

○教科及び単元名 第3学年 国語「言葉っておもしろいな『漢字と友だち』」 第7 / 12時

○単元計画

次	時	主な学習活動	評価規準
一	2	<ul style="list-style-type: none"> 漢字に込められた昔の人の知恵を知り、図書室等で漢字の成り立ちを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の成り立ちに関心を持ち、漢字の成り立ちを調べている。
二	3	<ul style="list-style-type: none"> 「漢字たんじょう物語」、「漢字の書き方歌」、「大発明、おもしろ漢字たんじょう物語」を作って紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の成り立ちに沿った「漢字たんじょう物語」、漢字の筆順を追った歌、漢字の組合せによる新しい漢字のたんじょう物語を作り、紹介している。
三	7 本時 第2時	<ul style="list-style-type: none"> 低学年向けの漢字ブックを作成し、1・2年の各学級にプレゼントする。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで話し合いに参加して、低学年向けの漢字ブック作りに興味をもって取り組んでいる。 作品を推敲し、書き方を工夫するなど、分かりやすい本にしようとしている。



○**時のねらい** 漢字の成り立ち等について学習したことをもとに、各自が1・2年生向けの「漢字ブック」作りの計画を立て、友達の意見をもとに必要な修正をすることができる。

○**本時の流れ（概略）**

学 習 活 動	支 援 と 評 価	A～D児に対する支援と評価
<p>1 前時までを振り返り、漢字ブック作りの目的を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を生かすために、古代の人々は、生活の中の様々な場面から上手に漢字を作り出したことを想起させる。 ・相手意識や目的意識をもたせるために、「低学年向けの漢字ブックを作る」ことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に机上の学習道具の整理等、学習環境を整えさせたり、前時までの学習を想起させるように、個別に対話をしたりする。 ○個別に声をかけて課題の理解ができてきているのかを確認し、必要に応じて補足説明をする。
<p>1・2年生向けの「漢字ブック」作りについて話し合おう。</p>		
<p>2 各自が漢字ブック作りの計画を立て、修正点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内 容 ・方 法 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを深めさせるために、以下の支援をする。 ①取り掛かりやすいように、書き出しの話型を示す。 ②まず、自分の計画をノートにまとめさせる。 ③話し合いでの他の児童からの意見（質問、賛同、付加等）をノートに整理させ、確実に修正ができるようにさせる。 ④話し合いに当たっては、修正のポイントが明確になるよう助言する。 <p>【 評価 】 ノート、挙手、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎：友達の意見に自分の工夫を加えて、自分の計画を修正している。 ○：友達の意見に沿って、的確に自分の意見を修正している。 △：どのように修正していいのかわからず、活動が停滞している。 <p>*△の児童に対しては、修正の方法を具体的に助言する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「①（漢字）の紹介をする。 ②（漢字）の成り立ちは、…」のように、漢字ブック作りの手順を示したワークシートを配付し、スムーズに取りかかれるようにする。 ○以下の個別支援をする。 A児：手順を一つクリアするごとに○をつけて称賛するとともに、次の手順について理解できているのかを確認する。 B児：立てた計画のよいところを称賛し、自分の考えを発表するように促す。 C児：ワークシートをもとに、計画を立てる手順を具体的に説明する。 D児：手順を一つずつ確認しながら学習を進めるようにさせ、戸惑っているときは、例を示すなど、具体的な助言をする。
<p>3 自分の修正箇所を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・修正箇所を中心に発表するようにさせる。 ・修正がまだできていない児童に対して、次時までには修正を終わらせておくことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに必要な事項がすべて記入されているのかを確認し、未記入の場所がある場合は、放課後、個別指導をし、計画を立てることができるようにする。

□ は、中心課題

4 授業検討



<授業者の自評>

- ◇活動にスムーズに取り掛かることができるようにワークシートを用意し、書く量が少なく、活動の手順の見通しが持ちやすかったため、A～D児が、活動に集中することができた。
- ◇他にも活動の見通しがもちにくい児童がいたので、ワークシートを使わせたが、効果的だった。
- ◆どの児童も計画を立てることはできたが、「漢字ブック」の作成に当たっては、書く活動が中心になるため、A～D児等、書くことに強い抵抗を示す児童には、あらかじめ項目ごとに記入枠を示した用紙を準備したい。
- ◆ワークシートを使わずにノートを使って計画を立てた児童の中に、ユニークなまとめ方をしているものがいくつかあったが、他の児童に紹介する時間がなかった。授業時間中はなかなか時間がとれないので、掲示をして紹介するなど、方法を工夫したい。

<支援内容・方法の検討の概要>

- ◇ワークシートが用意されていたので、担任がA～D児の個別支援に時間をかける必要がなく、他の児童に対しても机間指導の中で個別支援をする時間が十分とれていた。ワークシート等を今後も効果的に活用するとよい。
- ◇B児が発表したか、その際、他の児童がB児の計画のよい点を発表し、また、漢字の成り立ちについて、もっと詳しく調べた方がよいと他の児童が助言すると、B児がワークシートにそのことをすぐ記録する様子が見られ、児童相互の好ましいかかわり合いが見られた点がよかった。
- ◆漢字の習得に課題がある児童にとって、漢字の成り立ちなどを学習する本単元の学習は効果的であると思う。漢字ブック作りを継続し、興味を持って漢字の学習ができるようにするとよい。
- ◆毎回ワークシートを準備することは担任にとって負担が大きいと思われる。ワークシートは、他の児童にとっても有効な支援の方法となるので、同じ学年等が協力して準備するような校内の体制づくりをしていく必要がある。



5 フォローアップ

<支援の内容・方法の工夫>

①ワークシートの活用

- ・国語の学習だけでなく、他の教科等の学習においてもワークシートを活用し、児童の実態に応じて書くことの負担を軽減したり、見通しをもって学習したりできるようにし、積極的に学習に取り組むことができるようにする。
- ・同学年等で、協力してワークシートを作成するとともに、作成したワークシートは、次年度以降も利用できるように整理して残すようにする。
- ・児童自身がノートに学習したことを整理しながらまとめることも大切な学習となることから、一律にワークシートを与えるのではなく、書くことに抵抗がある児童の補助的な道具として活用する。

②ペア学習、小集団学習の工夫

- ・児童相互の良好な人間関係をもとに、個別に支援が必要な児童に対して、教師による支援だけでなく、児童相互のかかわり合いの中で必要な支援が行われる機会を設定する。

③漢字ブック作りを通じた漢字学習

- ・本単元の学習成果を生かし、新出漢字及び苦手な漢字の習得に当たっては、漢字ブック作りをさせ、児童が興味をもって漢字学習ができるようにする。

④一人ひとりのよさが認められる場の設定

- ・A～D児については、毎時間少なくとも複数回称賛できる機会を教師が意図的に設け、できた喜びや満足感を味わわせ、学習に対する自信をもつことができるようにする。

<児童の状況>

- ▽B、C児は、放課後の個別学習を自分から申し出るなど、漢字学習に対して前向きに取り組む様子が見られ、学習中は、周囲の児童からの支援で活動にスムーズに取り組めるようになった。
- ▽D児は、指示の理解が難しいため、一つひとつの活動に取りかかるまでに個別の支援が必要である。また、A児は、保護者の協力を得て、集中して学習に取り組める時間を少しずつ延ばすように支援している。



(2) 通常の学級における複数の児童<5年生>

〔要約〕

3人の特別な配慮を要する児童が在籍する通常の学級の事例である。
学級担任と校内コーディネーターによる実態把握をもとに、校内委員会で「めりはりのある授業展開」、「学習意欲の喚起と継続」など4つの授業改善の視点を設定して授業実践を行い、その成果を検証した。一人ひとりに応じたきめ細かな個別支援のための「授業形態の工夫」が今後の課題である。

1 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



児童 A	児童 B	児童 C
<p>< 実態 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員や友達の注意を引くための、場にそぐわない発言が多いが、周囲の児童は気にしていない。 ・ 意に沿わない指示に対し、教室から出たり暴れたりする。 ・ 受容すると幼児語で甘える。 ・ 調子がよいときは、積極的に学習に取り組む。 <p>< 所見等 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現力が不足 ○ 社会性が未発達 	<p>< 実態 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の態度や言葉に対して、短絡的な言動を返す。 ・ 本人の意に沿わない指示に対して、攻撃的になったり、その場から離れたりする。 ・ 困っている友達の手助けをする優しさがある。 <p>< 所見等 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全般的な知的発達の遅れ ○ 状況判断の誤学習 	<p>< 実態 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他者の視線や言葉に敏感で情緒不安定になりやすい。 ・ 友人関係のトラブルを引きずり、気分転換が難しい。 ・ WISC-III 検査(*)の結果はIQ=102で、記憶の項目が良好であったが、言語理解に弱さを示す。 ・ 専門機関で相談を受けている。 <p>< 所見等 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広汎性発達障害



〔校内コーディネーターによる授業観察での所見〕

項目	A児	B児	C児
視覚的な提示物に対する反応	○	△	○
聴覚的な刺激（指示理解）に対する反応	△	○	△
集中できる時間の程度	短い	短い	波あり
学習外行動の頻度	多い	多い	少ない



2 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した授業改善の方法〕

授業改善の視点	具体的な方法
ア めりはりのある授業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡潔な指示 ・ 教師の声の大きさ、速さ ・ 明瞭な活動の区切り ・ 学習の流れがはっきり分かる板書計画
イ 学習意欲の喚起と継続	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的活動・操作の活用 ・ 興味もてる課題提示 ・ 短時間の活動の組合せ等、テンポのよい学習展開
ウ 教材・教具の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚的な情報と聴覚的な情報の組合せ ・ 児童の興味関心を考慮した教材・教具の作成
エ T1、T2の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導、個別指導

*WISC-III・・・個人の多面的な知的機能の特性を把握する検査

- ・ 包括的な一般指数を、言語性、動作性、全検査の3つの知能指数（IQ）で測定することができます。
- ・ 検査結果の分析から得られる4つの指数群（言語理解、知覚統合、注意記憶、処理速度）の値から、子どもの指導に有効な特徴を得ることができます。

3 授業実践

〔校内委員会での検討に基づく授業の展開〕



○教科及び単元名 第5学年 算数「整数の見方」

○本時のねらい 身近な生活の中にある整数の仲間分けをすることをとおして、整数は、偶数と奇数に類別できることが分かる。

○準備物 数字カード、綱引きカード、学習プリント 等

○授業の流れ（概略） *「ア～エ」は、校内委員会でも検討した授業改善の視点(P23参照)

学 習 活 動	ア～エについての手立て
<p>1 学習のめあてと流れを知る。 「みんなが日ごろ使っている数には、いろんな秘密があります。今日は、整数の秘密を見つけるための2つのクイズを考えて、最後にチャレンジ問題に挑戦します。」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">整数のひみつを見つけて、チャレンジ問題に挑戦しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「クイズ①」、「クイズ②」、「チャレンジ」の3つのキーワードを強調して、学習の流れを提示（ア） ・児童が興味をもちやすい「クイズ」形式にすることによる学習意欲の喚起（イ）
<p>2 10人の子どもの綱引きの組み分けを通して、1から10までの整数を分類し、偶数と奇数の特徴を話し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">青組（□、3、5、7、□） 黄組（2、□、6、□、10）</p> <p>①「4つの□の中に入る数は何でしょう。」 ②「理由を考えてください。」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">偶数：2で割り切れる整数 奇数：2で割り切れない整数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会で体験した綱引きを教材化（ウ） ・綱引きカードを提示し、これを操作しながら問題に挑戦（イ、ウ） ・正解の場合はシールを貼って賞賛（イ、ウ） ・机間指導、個別指導で考える手がかりのない児童への支援（エ） *いくつかの□の数字を示す。 ・数字やキーワードだけを記入すればよい学習プリントの活用（ウ）
<p>3 男子が偶数、女子が奇数のカードを持ち、小さい数から順に整列し、偶数と奇数が交互に並んでいること及び「0」が偶数であることを見つける。 「並び方のきまりに気が付きましたか。」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">女①、男②、女③、男④、女⑤、男⑥、女⑦、男⑧、女⑨、男⑩</p> <p>①「0のカードは、どこになりますか。」 ②「0は、偶数と奇数のどちらになるのでしょうか。」</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">0 女①、男②、女③、男④、女⑤、男⑥、女⑦、男⑧、女⑨、男⑩</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動を通したきまりの発見（イ、ウ） ・偶数は青、奇数を黄で色分けした数字カード、「0（表：赤、裏：青）」のカードの提示（ウ） ・「偶数と奇数が交互に並んでいること」と「0が偶数であること」を関連付ける学習展開（ウ）
<p>4 大きな整数が、偶数と奇数のどちらになるのか簡単に見分ける方法を発表する。</p> <p>①「今日のチャレンジ問題は、大きな整数の見分け方です。」 ②「10枚のカードに好きな数を書いてください。」 ③「二人組になってください。」 ④「相手の数字カードを引きます。」 ⑤「数字が偶数が奇数のどちらか、当てっこ競争をしましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム化による意欲の喚起（イ、ウ） ・ゲームの方法を板書で説明（ウ） ・ゲームの方法の理解と、一の位に着目すればよいという見通しをもたせるための、一斉指導による練習問題（ア、イ） ・簡潔明瞭な指示（ア） ・ゲームを楽しめるように助言等を行う机間指導（エ） ・ゲーム終了後、学習プリントを利用した本時の学習のまとめ（ウ）

「 」内は、主要な教師の発問及び指示

□ は、板書計画

4 授業検討



<授業者の自評>

- ◇3人の児童の実態に応じた支援の方法を考え、準備に時間を要したが、3人とも進んで発表したり、友達とかかわったりするなど、楽しそうに学習に参加している様子が見られ、大変うれしかった。
- ◇校内委員会で、具体的な授業改善の方法を検討することができたため、児童理解が深まるとともに、児童の実態に合った支援の内容・方法を選択することができた。
- ◇具体的な活動・操作は、児童自身の問題解決に有効であり、意欲的な学習の取組につながった。
- ◇3人の児童の実態に配慮した支援は、他の児童にとっても、「分かる授業」、「楽しい授業」につながった。
- ◆複数の活動・操作を1時間に盛り込む場合は、活動・操作に時間を要して、その後の思考が十分深まらないことがあるため、時間配分を考えて活動・操作の内容を検討する必要がある。

<支援内容・方法の検討の概要>

- ◇一人ひとりの児童の実態を考慮した支援の内容・方法は、すべての児童にとっても有効な支援となる。
 - ・ゲーム的な要素を取り入れることで、すべての児童にとっても、学習に参加しやすい雰囲気をつくることができる。
 - ・視覚的な教材・教具、具体的な活動・操作を活用することが、すべての児童にとって「分かる授業」につながっていた。
- ◆机間指導の際、特別な配慮を要する児童に重点を置くことはやむを得ないが、他の個別支援等を求めている児童に気づきにくくなるため、教師からの支援を求めるためのサインを学級内で決めておくとうい。
- ◆一斉指導の中での実態に応じた支援の工夫だけでなく、少人数の中で、個別支援に要する時間をより多く確保し、3人の特別な配慮を要する児童だけでなく、他の児童に対しても一人ひとりのニーズに応じた支援を行うことができるように授業形態を工夫するとよい。



5 フォローアップ

<支援の内容・方法の工夫>

ア めりはりのある授業展開

- ・特に簡潔な指示と授業の流れがよく分かる板書計画に留意する。

イ 学習意欲の喚起と継続

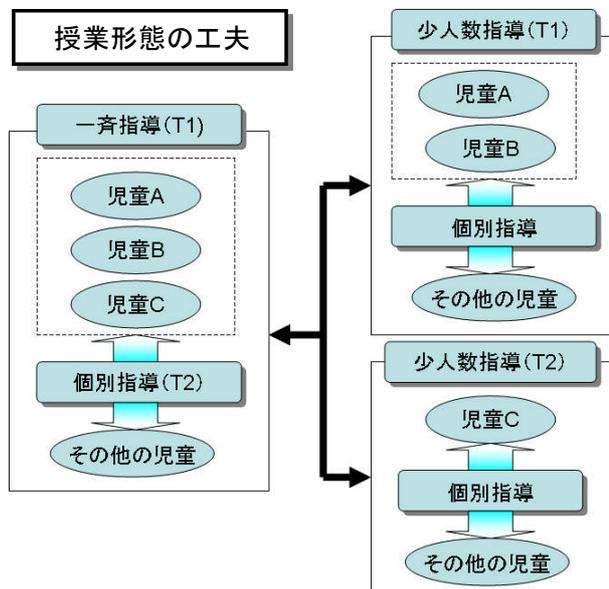
- ・ゲーム的な活動を取り入れたり、具体的な活動・操作を取り入れたりする。
- ・一つ一つの活動の時間を短くして組み合わせ、テンポのよい授業展開を工夫する。

ウ 教材・教具の工夫

- ・カード類、具体物などの視覚的な情報提示に留意する。
- ・毎時間活用したカード、具体物などを整理して保管し、他の学習でも活用できるようにする。

エ T1、T2の役割分担

- ・一斉指導でのT1だけでなく、学級を2つのグループに分けた少人数指導を学習内容に応じて実施し、3人の児童を含め、より一人ひとりのニーズに応じた支援を行うようにする。



* T1 : 担任

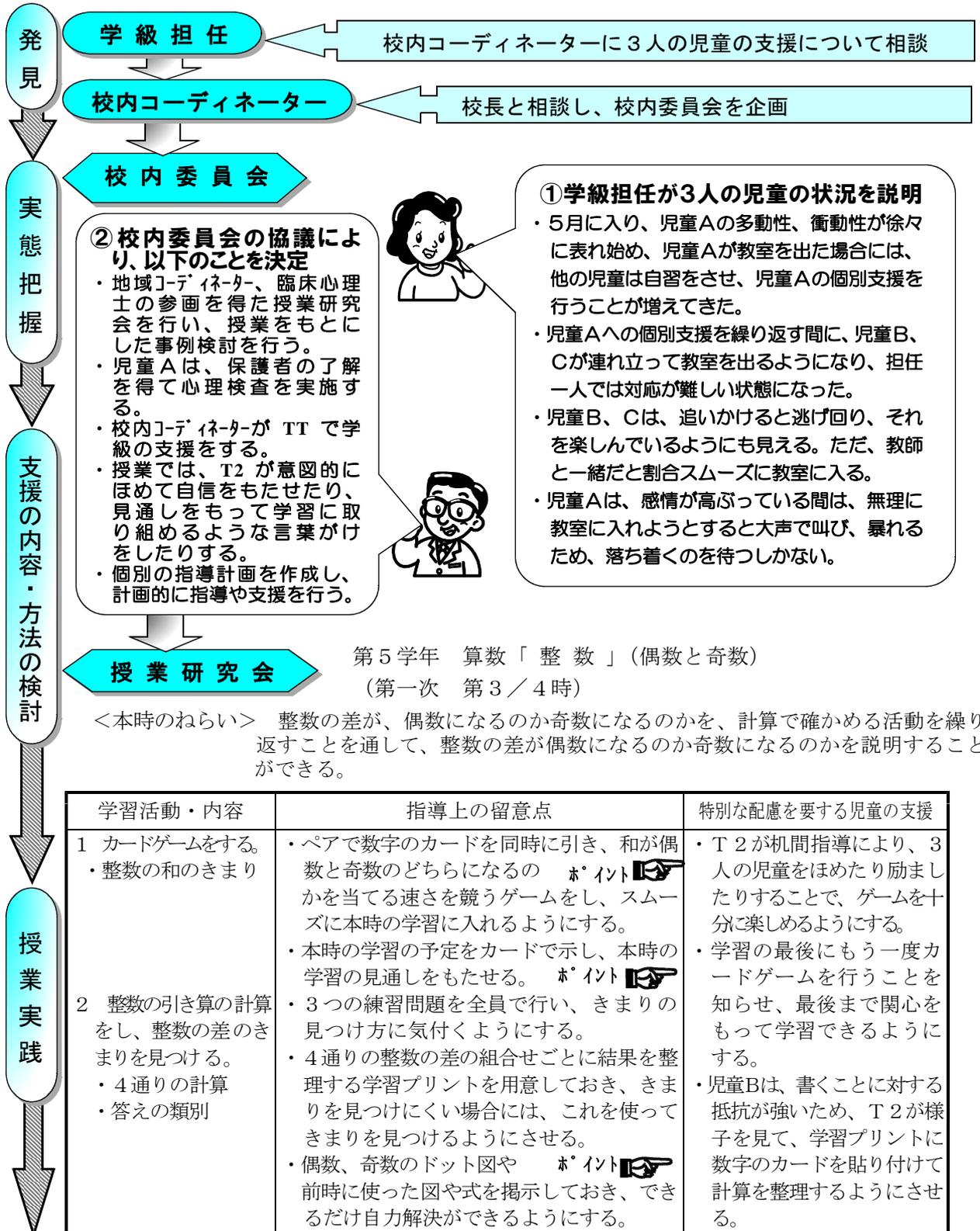
T2 : 校内コーディネーター (専科教員)

(3) 対人関係に課題のある児童<5年生>

〔児童の実態〕

児童A：感情の高ぶりを自分で抑えられず、注意を引くものがあると教室から出て行く。<ADHD>
 児童B：学習面に遅れがあり、直感的に行動する傾向がある。
 児童C：感情表現や社会性が十分に育っていないこともあり、幼稚な言動が見られる。
 児童Bと連れ立って教室から出て行くことが増えてきている。

支援の流れ



<p>3 自分で見つけた整数の差のきまりを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偶数－奇数＝奇数 ・偶数－偶数＝偶数 ・奇数－偶数＝奇数 ・奇数－奇数＝偶数 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者それぞれのよいところを称賛し、児童が互いのよさを認め合い、何でも言える雰囲気づくりをする。 <p style="text-align: right;">ポイント </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・T2が机間指導により、よいところを見つけて称賛し、発表する自信と意欲がもてるようにする。
<p>4 カードゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整数の差のきまり 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめのゲームと同じようにペアでゲームをし、学習したことを確かめるようにさせる。 ・次時の予告をし、次時の学習に見通しがもてるようにする。 <p style="text-align: right;">ポイント </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・T2が机間指導により、ほめたり励ましたりすることで、ゲームを十分楽しむことができるようにする。

事例検討

支援の評価と修正

③事例検討の際、臨床心理士を交え、今後の対応について、以下のことを確認

＜認知・行動特性や障害の状態への対応＞

- ・言語による指示の出し方 → 短い言葉、話のポイントを要約、身振りや手振り
- ・課題提示の方法 → 言葉だけでなくカード等による視覚的な提示
- ・課題の質と量の加減 → 達成可能な内容、集中できる量
- ・個別の評価 → スモールステップ、意図的に評価場面を設定し承認の機会を確保

＜学習の流れの中での支援＞

- ・導入時の意欲喚起 → 具体物の提示、ゲームの活用、言葉による注意喚起など
- ・展開時の操作活動の導入 → 実際に行うことによる感覚的な理解
- ・展開時の思考と活動の時間配分 → めりはりをつけてテンポよく

＜授業場面での支援の方法＞

- ・板書計画 → 文字の大きさ、文字数を少なくし簡条書き
- ・提示物 → 注意喚起のための図、写真、絵などの活用

【臨床心理士からの助言】

- ・現在の心情を理解するように努め、情緒面へのかかわりに重点を置くこと。
- ・「語りかける」対応が必要であること。
- ・TTにより、個別の対応を行うことが今は必要であること。

校内委員会

フォローアップ

④学級担任が状況を報告

- ・事例検討会で確認した支援を行うことで、3人の児童が落ち着いて学習に取り組める日が増えてきた。
- ・特にTTで支援を行う時間は、発表したり、進んで友達とかかわる様子が多く見られるようになってきた。
- ・担任に他の児童にも目を向ける余裕が出てきた。
- ・3人の児童の個別の指導計画を作成し、児童Aについては、保護者と協力して個別の教育支援計画を作成した。



⑤今後の支援についての確認等

- ・T2の学級内でのかかわりを3人の児童から他の児童にも広げていき、児童相互のかかわりの中で学習に取り組めるように支援する。
- ・児童Aについては、T2による別室での個別指導を週2時間実施し、引き続き情緒の安定を図る。
- *校内委員会で支援の在り方について検討した上で授業研究会を行うことで、教材研究の段階から児童への個別支援について考えることができた。
- *臨床心理士から、授業の中での3人の言動について、心理的な側面からの助言を得ることができ、児童理解を深めることができた。

